

マルセイニュース 9月号

発行日 2015/9/21

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 Tel 0146-22-5123



昆布漁も終盤、いよいよ秋ですね



昆布漁にイカ漁そして鮭の定置網漁。それぞれの漁の風景は、浦河の季節の風物詩のひとつです。「海がちょっと変なんだよなあ」という声が聞こえます。いつもなら獲れない魚、ヒラメや鯛が水揚げされたりするそうです。ヒラメもいいけど、めっきり獲れなくなったホッケが食べたいです！



NEW

新しいタンクローリーの名前は、『ほのぼの号』！

新しいタンクローリーを見た時、全員が爆笑してしまいました！デザインをお願いした方がマルセイをイメージしたテーマは「ほのぼの」。そこで、新しいタンクローリーの呼び名は「ほのぼの号」に決定です！虹はマルセイとお客様との架け橋。フタさんは〇〇〇〇のイメージ？（笑）

9月14日から早速、町内の灯油配送にお伺いしている「ほのぼの号」を、どうぞよろしく願います！

うれしいです！なにせ、マルセイでは初めての年数の経っていない中古車ローリーです！
あおくん、しろくん、みどりちゃんと歴代のタンクローリーは、製造から20年〜25年は経過した中古車を使用してきました。でも、今回は違います！取引先にご尽力いただいたお蔭で、まだ5年ほどしか使用していないピッカピカの中古車を迎えることができました。関係者のみなさん、ご協力ありがとうございました。ごさいます！

うれいす！なにせ、マルセイでは初めての年数の経っていない中古車ローリーです！



行ってらっしゃーい！スッキリとした青空の下、「ほのぼの号」のデビューをみんなで見送りました。



元旅館だった自宅の和室でみっちり！



今年は浦河で実施しました 社長の「2015年 経営合宿」



マルセイの来期へ向けて社長が経営合宿を実施しました。今年も例年どおり経営アドバイザーの須田知身さんと二人、9月1日～3日までの3日間ひたすら会社の今後について考えました。今回で13回目。改めて「私たちはどんな仕事をする会社でありたいか」と自問自答し、来期の経営計画を練りました。

中・長期で 経営を考える時間を 確保する「経営合宿」

今回は初めて浦河で、しかも自宅の和室を使つての合宿でした。本当は会社を物理的に離れた方が、長期的なことを考えるには都合がいいです。遠くに出かけて日常を離れると雑事に振り回されることもなく、頭の中の視界が広くなります。今年もできればそうしたかったのですが、諸々の事情で地元で開催しました。何度か現場に戻り仕事をすることもありましたが、無事に合宿を終了することができホッとしています。

合宿二日目のこと、こんなことがありました。「小山さん、たとえば中学生に僕（アドバイザー氏）のことを紹介すると思つて話してみてください。一言で。」

わたしの答えは「困っている会社を助けて、経営者が成長するのを応援する人」でした。まあ、満点の解答です。

あなたの仕事を 中学生に一言で伝えると？ その問いかけに・・・

「じゃあ次は、同じように小山さんの仕事を一言で話してみて。」と言われたのですが、これがすごく難しかったです。長くなりすぎて一言では言えないし、長いからと言つてじゅうぶんに説明し切れてもいません。それでもウンウンうなりながら、なんとか一言で伝えられるよう繰り返し考え、答えていきました。



楽しいことも♪早朝、まさごの大久保さんの案内で、マックスと溪流釣りにも行きました。

すると、アドバイザーの須田氏は、「じゃあ小山さん、いまの説明を聞いた中学生がマルセイに入社したいか考えてみてください。」と、次に問いかけてきました。

わたしが中学生だったら、こんな説明を聞いてもマルセイという会社に全然魅力を感じませんね、と答えざるをえませんでした。

そうでしょうか？と須田氏は言い、話を続けました。

「小山さん。マルセイがつまらないなんてことを、僕は言いたくないじゃないんです。むしろ、少しでも会社をよくしようと、みんなで一生懸命にとり組んできている。そのことを応援したり喜んでくれている地域の人たちが、すでにいるはずなんです。その会社の良いところをしつかりつかんで、一言の下に答えられて、おつ、こんな面白い会社なら仲間になりたいな、と中学生が思うような会社にしていきましょうよ。」

今回で十三回目の経営合宿でしたが、新たな気持ちで会社の経営にとり組もうと今回ほど思ったことはありません。マルセイ第二の創業という心構えで、来期から進んでいくつもりです。

(株)マルセイ社長 小山直

経営アドバイザーが『SB研究会』にゲスト参加！ 模索している若者がいいねえー

「何のためにその仕事をしているのか。その事業をしようと思ったのは何のためだったか。その問いに答える覚悟はあるのかと自問自答しながら、今も自分の成そうとした仕事や日々悪戦苦闘しています。」「明確に的確に指摘やアドバイスを頂いた刺激的なSB研でした」と参加者の感想からご紹介します。



頭ではわかってはいるけど、真つ先に目を背けてしまうことですが、経営に限らずあれこれ悩んでいると、先ずは目の前のことを「どうしよう、

どう乗り切るか」と問いを立ててしまいがちです。でも、一旦立ち止まって「なんのためにこれをやろうとしていたのか」と冷静にその目的を見つめなおすと、自ずとそこに向かうためには何をするか、何をしないかという答えが見えてくるものだと改めて気付かされました。(Aさん)

「それって他の人に役立つもの？ 必要なもの？」という大事な視点をいただきました。「目的」や「役割」というものが自分の益のためだけであつてはならないということの理由を的確に認識することができました。なぜなら、事業は一人では成り立たないから。顧客や協力者がいてこそ事業だから。自分の事業の目的や役割を誰かに宣言したときに、どんな反応が返ってくるか。

◎ぜひ協力させて欲しい！

○応援したい

△勝手にやれば？

やろうとしていることに協力したいと思う人が現れるか。その目的を達成するためのプランが、他の人よりもあるか？その目的は、時代、場所、背景を考慮したものになっているだろうか。この土地のストーリーを踏まえたものになっているだろうか。SB研ではいつも、次進むための示唆を与えていただいています。今回は目の覚めるような刺激のある時間でした。(Bさん)



中古ですが・・・ 念願のタンクローリーを導入！ 「ほのぼの号」の灯油配送をご利用ください！

浦河消防署の検査も無事に終了！『ほのぼの号』が町内を走っている姿はご覧いただきましたか？これから迎える冬季間、フル稼働してお客様のお宅にお伺いしたいと思います。マルセイの職員・スタッフ一同、ますます元気で頑張ります。私たちの『ほのぼの号』が伺います！マルセイの灯油定期配送を、どうぞ宜しくお願いいたします。

青くんはじめ、使用できる限界ぎりぎりまで働いてもらった「みどりくん」でしたが、「ほのぼの号」には最低でも10年は頑張ってもらいたい！と話している社長です。

大安の9月11日（金）を選んで、浦河消防署に使用前点検をお願いしました。「今度は何色かな？」と思っていたんですよ！と、検査を担当してくれた消防の方もなんだか嬉しそうに思えたのは気のせいでしょうか。検査中の写真撮影とマルセイニュースへの使用許可も快諾していただきました。ありがとうございます！

「また、子どもたちに指さされるんじゃないか？オレはなるべくまっすぐ前を見るようにしてよう。」と灯油配送を担当する寺さん。ほのぼのとしたこのデザインのイラストは、誰が見ても寺さんとはミスマッチかな？

この前のタンクローリー「みどりくん」に、社長とマックスの似顔絵ステッカーを貼って走っていた頃は、「なんだか気がつく」と、笑ってこっちを見てる人がいたりしたんだよねあ」とのこと。うーん。今回も見慣れるまでは、大いに笑われてしまいそうです。寺さん、よろしくー！



マルセイを出て、浦河消防署で検査を受けている様子です。50メートルもあるタンクローリーのホースを引き出して計測しましたが、ゴムホースは重かったー！



無料交換にお伺いしています！

24時間見守る「ガス漏れ警報器」

5年を過ぎると誤作動を起こし正しく作動しないことがあったことから、警報器は、使用期限が5年となっています。マックスが、ガスを使用していたらいているお客様宅の警報器を交換にお伺いしています。どうぞご協力をお願いいたします。

ガス漏れ事故のほとんどは、「ガスをつけたつもり」「ガス栓を閉めたつもり」「すぐにもどるつもり」などのミスが原因となっています。そこで、有効なのが、「ガス警報器」の設置です。正しく設置していれば適切に作動して、人のミスによる事故を警報してくれれます。ガス警報器は、お宅の安全を24時間見守ってくれています。



「お茶を飲んでいく時間はある？」とお誘いをいただき、手作りのコースターやのれんを見せていただきながら、コーヒータイム♪

警報器の交換にお伺いしながら、久しぶりに会えたお客様と楽しい時間を過ごさせていただいています。ありがとうございます！

2015 感動エネルギー LPガス 感謝のプレゼントキャンペーン



今年も、年に一度のLPガスキャンペーンが始まります。当選率が高く人気のあるキャンペーンです。みなさんどうぞふるってご応募下さい！



当社のお客様からも毎年必ず当選者が！

LPガスの利用消費者の一人として、毎回応募しているわたしたち。中でもばわふるは、見事にA賞を当てたことがありますが、実は最近も他の懸賞応募で大きな商品を当てました。すごい！

本用に今回こそは、マックスも特賞の一万円を狙いたい！さあ、皆さんも一緒に応募しましょうね。今月のガス検針票と一緒にお客様宅に配布している応募用紙で、とにかく先ずはご応募です！

10回目のチャリティーマルシェを終えることができました。ご協力いただいた生産者の皆さん、ご来場いただいた皆さん、フライヤーを置かせてくれたお店の皆さん、宣伝してくれたお友達、皆さん、実行委員の皆さん。本当にありがとうございました。

今回のトークライブでは、原発事故の当時のこと、そして今について、皆さんと状況を共有し、そして、小さな声を押し潰しながら、原発事故もなかったことにする正常性圧力の強まりについて、皆さんと考えました。被災地の状況がどうなっているか。避難されている方がどういう状況にいるか。

その支援の在り方がどうなっているか。なかなか報道されることもないため、どうなっているか、よくわからないし、よくわからない状況が続くと、人間は関心を失っていきまします。知ろうとすることを止めずに、目をそらして楽をしたがる自分の弱さに負けないように。

実行委員長 今野徹



『いのちをつなぐチャリティーマルシェ』

9月5日(土)・6日(日) 札幌市中央区エディット・東急ハンス前

9月6日、『いのちをつなぐチャリティーマルシェ』の会場に足を運んで来ました。若者が中心となつて、春と秋の年2回継続開催している東日本大震災の復興支援活動です。あの大震災を忘れないよう、変わらずに被災した人々に寄り添いながら活動が続いている若者たちがいます。



早朝浦河を発ち、日帰りでチャリティーマルシェに行ってきました。東急ハンス入り口前で生産者さん自らが販売している野菜を買い求め、ハンス裏手のイベントスペース「Edit」に向かいました。東日本大震災から4年半が経ち、はたして人は集まっているかなと(主催者でもないのに心配しながら会場に入りましたが、杞憂に終わりました。賑わっていました。



たくさんの方の中で、「ぱんぱかぱん」の以西さんが、様似町の生産農家・濱島孝徳さんの応援を得てパンを販売しているのを発見。道内各地の生産者と料理人が完全手弁当でつくりあげているこのイベントに、地元の方が参加されている姿をみてなんだか誇らしい気持ちになりました。若いボランティア・スタッフもたくさんいました。

考える場。被災避難者との交流の場。行動に移す場。このチャリティーマルシェは、単なる物販で終わらせるつもりはありません。



会場で、実行委員長の今野徹さんに挨拶。わたしは、この人が好きなんです。今回もちよつと頑張つて日帰りで札幌に行ったのは、今野さんに会いたかったからです。

北海道庁から農水省に出向していたのに、今年退職して一人で起業した今野さんに「創業、おめでとうございませう!」の一言を言いたかった。言えてよかったです。今野さん、次回のマルシェでまたお会いしましょう!

社長



販売されている野菜やパンの売り上げは、東日本大震災の復興支援団体に寄付されています。継続されている活動ってすごい!



大通り4丁目商店街主催！自分たちで商店街に賑わいを！

4丁目ミニフェスタ開催！

8月30日(日) 10:30～14:30 4丁目商店街の空地

大通り商店街を盛り上げたい！と『4丁目フェスタ』が開催されました。商店街にある空き地がこの日は、暖かい雰囲気イベント会場に姿を変えました。自分たちの手で商店街に賑わいを創り出そうと、4丁目商店街の皆さんが思考を凝らした小さなお祭りに、大きな拍手を送りたいです！

「ず、私たちが聴き入ってしまったんですよ」と、主催者のみなさんも楽しめた様子が伝わってきました。良かったですね。
自分たち自身で、自分たちの商店街に賑わいを創り出した4丁目商店街の心意気を見習わせていただきたいと思います！



商店街の方に感想をお聞きすると、「1回目にしては良かったかな。これをステップとして続けられることを祈ります！」「懐かしい昭和のフォークソングのメロデーには、お店があるにも関わらず、親子にも楽しんでもらえるように！と企画された初めての『4丁目ミニフェスタ』。少し曇り空の肌寒いお天気でしたが、会場には次々と子ども連れのお客さまが足を運んでいました。



親子にも楽しんでもらえるように！と企画された初めての『4丁目ミニフェスタ』。少し曇り空の肌寒いお天気でしたが、会場には次々と子ども連れのお客さまが足を運んでいました。



町制施行100周年記念事業

『タイムスリップ浦河100年』

先人の百年写真展 ～浦河港修築の頃、馬産初期を中心に～
9月4日(金)～30日(水)まで お料理 松山にて

町制施行百周年に合わせ、「お料理松山」では松山和弘社長が企画した写真展を開催しています。港と馬に焦点を絞った先人の百年の歩みを伝える貴重な写真展です。



浦河港ができるまで
写真に興味深く見入っていました。昔、港ができる前は本当に何もかも砂浜だったんですね。
浦河港竣工祝賀では、鼓笛隊の行進や大博覧会があったことが写真でわかりました。当時の人々がどれほど待望していた港だったのかも想像することができました。

マックス

200年続く浦河の「馬文化」
「若い人に伝えたい歴史がある」と、先月の地域デザインカフェでも浦河の歴史についてお話をしてくれた松山さん。貴重な写真を一緒に見ながら、今あるこの町の姿に至るまでの歴史に触れることができました。

200年続く浦河の「馬文化」
持ったものは『文化』
と云えるんですよと、知り合いの文化人類学者の方から聞いたことがあるという松山さん。「浦河馬文化」というタイトルの年表を紹介してくれた時も、二百年以上続いているから立派な文化と言えるんですよと、浦河の歴史を大変誇らしそうにお話して下さいました。

が、展示期間中、解説として書き加えられていくと思います。一方的ではなく、情報を共有しながら進めています。なんだか生きた写真展だなと思いました。



博物館の協力を得て、浦河港修築と馬産初期の頃を中心に展示紹介されている写真の数は、60点前後もあり、なかなかの迫力でした。写真を見た方々から得た情報

最近読んだ本の中より…



『3月のライオン』

うみの

羽海野チカ 著（漫画家）ジェッツコミックス

おもしろい！妻が友人から借りていたマンガにはまりました。主人公の桐山零（きりやまれい）は高校生のプロ棋士。将来を嘱望されています。しかし今ひとつ真剣になれません。将棋に対する中途半端さに思い悩んでいる彼が、彼のことを勝手に親友と呼ぶライバルや先輩棋士、そして暖かく受け入れてくれる三姉妹の一家との係わりを通じて成長していく物語です。

主人公は棋士ですから、とうぜん勝負事の話です。ですが、登場人物のキャラクター設定がわたしの時代とぜんぜん違います。わたしが少年のころの勝負ごとマンガといえば『巨人の星』『あしたのジョー』『タイガーマスク』などのスポ根ものがほとんどでした。特徴は、登場人物がとにかく熱い。熱苦しい。命がけで闘う（ときには力石徹みたい）に、作中で本当に死んでしまいます。そしてその何とも熱苦しい人間関係のなかから、感動に出会うというのが、大方のストーリー展開だったと思います。

しかし、このマンガの主人公桐山零はまったく違います。まず、とても静か。友だちがいまません。お昼ご飯はいつもひとり。友だちがいないので、修学旅行に行くことだけは絶対に避けたいという、十代の青年です。むかしのマンガなら脇役のキャラクターですが、主人公なんです。時代を感じます。

でもこの大人しい青年が何を考えているのか、どんな悩みを抱えているのか、表現はヘタでも他人への優しい気持ちを持つていることなど、読んでいくとよく分かっていきます。そこがこのマンガの魅力だと思いました。正直なところ将棋の勝負そのものよりも、対戦する棋士も含めて登場する人間一人一人が、自分の背負っているものとどう向き合っているかというところに共感しました。

三姉妹の真ん中、中学生のヒナがイジメに会い、ひじょうにつらい思いをしながらもそれを乗り越えていく、それをなんとか支えようとする主人公零の葛藤を描いた巻は、ほんとうに良かった。さらに、三姉妹とその父との再会に「お前、関係ないだろう」と言われても係わっていく場面では、久しぶりにマンガ読んで泣きました。零は、ヘナヘナした全然強くない青年なんです。でも冷笑とか居直りに逃げたくない気持ちを持ち続けているところが好きです。



白泉社サイトより

社長

ところで三姉妹の末っ子のモモちゃん。この子がじつに可愛いです。ご飯を食べすぎてお腹ぼんばんにしてひっくり返り長女が、大変！イカめしみたいになつてゐる！という場面大好きですね。むかし亡くなられた北杜夫さんが、代表作『楡家の人々』について書いていたこんなエピソードがあります。

『楡家の人々』を大絶賛してくれた三島由紀夫から手紙が来て、「（作中の）桃子はなんて可愛いんでしょう。可愛くて仕方がありません。どうか私に養女にください。」と書かれていたそうです。いい話だなあと、思つて、ずっと憶えていました。わたしも『3月のライオン』のモモちゃんが欲しい！

♡ お客様から届けていただいた声の中から…



8月号でご紹介した『小川未明童話集』のこととお客様からお電話をいただきました。「若い人もこういう本を読むんですね。手紙を書く」と思っただけで、うれしくて、先ずはお電話をさせていただきました。（うちの社長、若くないですけど、喜んでいただけ良かったです。）

5月号で紹介した『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』を読んだ方からは、「世の中には、自分で考えて、自分の暮らしを作り、自分の生き方を実現している人たちがずいぶんたくさんいるんだなあ」と感心しました。息子や孫に、この本はいい本だから読んでほしいよ、なんて薦めたことはありませんが、この本だけは、ようやく大学生になった孫の男の子に読ませようと思いました。こんな感想をお手紙で寄せていただきました。

7月号『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？』という本には、「ネルソンさん…読みました。こうした、戦争の悲惨さやアメリカの横暴さ（アメリカに限ったことではありませんが）などを自分の言葉で伝えてくれる人が、もつと世の中に出てきて欲しいと思いました。」とメールで感想をいただきました。

町内で出会った方からは、「マルセイの方ですよ？ マルセイニュースをありがとうございます。いつも楽しみに読ませていただいていますよ」「ダイエツトできないのは、いつもみんなでおいしそうなのばかり食べるからじゃないの？ 楽しそうだね」「先ずは、ばわふる日記から読むんですよ！」などなど。

この様にお客様から声を掛けていただくことがあると、マルセイニュースを発行して、いて良かったなあと思います。これからも宜しく願っています。

マルセイ一同





これにケチャップを付けていただきました^^

ガスを使っておいしくクッキング 鶏ひき肉で“焼きナゲット”

マヨネーズ味の揚げないナゲットは、大豆を加えたヘルシーな一品。健康的でおすすめできるメニューのはずでしたが、マックスの手にかかること・・・。「やっぱり味見しなくっちゃ！味見は基本でしょ！」と久々の低得点！



●材料（2人分）

鶏ひき肉 150g
大豆（水煮） 60g
マヨネーズ 大さじ1/2
塩 小さじ1/2
こしょう 少々
オリーブオイル 大さじ1
マスタード、トマトケチャップ 各適宜

A [粉チーズ 大さじ1
薄力粉 大さじ1



●作り方（参考 クックパッドレシピ）

- 1、大豆はすり鉢でするか、フードプロセッサーで荒く砕く。（ビニール袋に入れてつぶしました）Aは混ぜておく。
- 2、ボウルに鶏ひき肉を入れて塩、こしょうをふり、しっかりとこねたら大豆とマヨネーズを加えて混ぜ、一口大の小判型に整えてAをまぶす。
- 3、フライパンにオリーブオイルをひいて熱し、2を入れて両面をこんがり焼く。器に盛り、お好みでマスタードやトマトケチャップを添えて出来上がり！



ほへら。撮影時の食卓にはケチャップなし！です。

自分はおいしかったです。もう一品のしょっぱい方も、ごはんのおかずにはいいですと、一人だけ高得点をつけてくれたキョウちゃん。（優しいのです♥）他の面々は、（本人も含めて）しばし沈黙。このし～んとした感じは、社長が記録的な低得点だったあのとき以来でしょうか。久しぶりに、とっても残念な雰囲気での試食会でした。笑

家族の食卓でもいつも「味見した？」と言われていたマックス。その料理はホームランか三振だな！とも言われています。この日も出来上がった料理を「味見してないから～」とテーブルに並べて・・・ご覧の結果でした。

「味見をしないっていうのは、うちの会社でいえば、お預かりしたストーブを燃焼試験もしないでお客様に届けるってことだよな。」と社長が一言。「そうそう。ホント、あり得ないよね」とばわふる。もっともな話です。皆さんはしっかり味見をして調理してみてくださいね。本当はおいしいレシピですから安心して調理して下さいね♪



大豆が入った焼きナゲットを食べて、「やっぱり肉は肉だけがいいね！」と肉好きのばわふる。「なんだか今日は頑張っていたけど、この人が頑張ったときはダメだね。確か、前にもこんなことがあったわ」とも。（確かにそうです。）「でも、味見をしないとね！料理を作る人は何度も味見を繰り返しているから、出来上がったときにはお腹がいっぱいになってるんじゃない？1に味見2に味見！3、4が無くて5に味見！それが基本！！」

そしてこの日、ガスコンロでご飯を炊いたマックスでしたが「ねえ、これで大丈夫？」と自動炊飯機能を使いこなせず途中で火を止めてしまいました。それを見ていたばわふるが、「社長！この炊飯機能を使いこなせない人は、とってもお客様におすすめできる営業マンではありません！」と一喝！トホホ...

久々に残念な試食会でした！

試食した人	今日の料理は★いくつ？（最高得点 ★3個）
社長 (1.8)	★★ 味見をすれば★★★になるはずのものを、味見しないからこんなことになるんだよ。
キョウちゃん (2.5)	★★★ そんな嫌いじゃないです。おいしいですよ。 (たくさんお代わりしてくれました。^^)
ばわふる (1.8)	★★ 頑張った！それにはその頑張りに点は！
マックス (1.5)	★ う～ん。こんなはずじゃなかったんだよね～。 やっぱ、私は頑張りがすぎるとダメなことだ！



もう一品は、鶏ひき肉に酒、水切りした豆腐、きざみネギ、味噌で味付けし、形を整えた後に黒ゴマをまぶして焼いた一品でした。

社長のちよつと長いコラム

『群青いろの映画』

ぐんじょう

8月の初旬、札幌で映画を見ました。「群青いろ」という聞き慣れない映像制作ユニット(二人組)の映画です。俳優の廣末哲万(ひろすえひろまさ)さんと、脚本家の高橋泉さんの二人が交互に監督をつとめています。すでに10数本の作品がありますが、劇場で一般公開することがほとんどないの、首都圏でもなかなか見る機会がありません。札幌で上映会があり、出かけてきました。2日間で5作品が上映されたのですが、うち3本を見ることができました。

これまでも度々書いてきましたが、いまの若い人たちは大変だなあと 생각합니다。買い物をするたびに税金を取られ(昭和は消費税が無かった)、自分たちがもらえるかどうか分からない高い年金や保険料を支払い、就職したとしてもその会社が10年後もあるかどうか確かじゃない(どんな大企業でもね)。

いや、昔だつて大変だつた。みんな貧乏だつたんだ。カツカレーを注文するのは贅沢なことだつたぞ。どう考えたつて今の方が豊かな世の中だ、と言いたいわたしと同じ50代から上の世代の声が聞こえてきそうです。そう、それはその通りなんです。否定はしません。わたしがいいたいのは、今の世の中のキツさのことなんです。わたしは40年近く前にくらべて、今はキツイです。

なにがキツイかというと、他人に対して寛容じゃ無い。仕事でミスを犯すことのストレスは、かつてと比較にならないくらい高いです。それはミスを許さない無言の圧力。空気の変化があるからです。

自らの所属する組織も、ミスを許さない。ミスを犯した仲間を最後まで守ってくれるなんて期待してはいけません。時には堂々とウソをつく者が有能だと評価され、小さなミスにつまずく者は無能の烙印を押される。大げさだと思ふ方もいらつしやるでしょうが、わたしは自分が若かった昭和後期と較べると、ずいぶん世の中は変わったと思つてしまうのです。

群青いろの映画は、寛容さを失つてしまった世の中の姿を見事すぎるくらい見事に描いていました。『ダリー・マルサン』と『F11』の2本は見ていて痛々しい。それでも、もう一度見たいと思わせるすごい映画でした。2日目に見た『あした家族』では泣きました。ホントにすばらしい映画だと思いました。内容を記すのは控えますが、今月の本で紹介したマンガ『3月のライオン』と共通するテーマがあります。それは家族です。

映画の終盤、とても繊細な心を持つ次女が勇気を奮い起こす場面を見て泣き、末っ子の長男が「弥生ちゃん、格好よかつたなあ、僕ならとても出来ないや」というところでまた泣き、最後にその末っ子が「行く。僕ひとりで行く」と勇気を出して前に進むところでは涙が決壊しそうになりました。後ろの席の男性は決壊していましたね。

この映画、ぜひ浦河でみなさんと見たいと思っています。



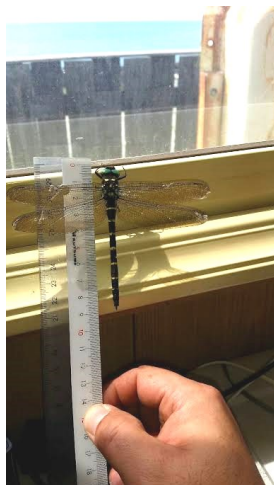
さのばわふる日記



その日は、窓もドアも全開にして事務所のお掃除でした。いろいろな来訪者が当社に。アブさん、蝶々さん、蜂さん、ハエさん。気にもせず掃除をしていたら、なんだか違う気配を感じて見て見ると……うわ！大きい！

こんな大きなオニヤンマは見た事ないかもと慌ててドアを閉めて閉じ込め作戦。

全長を計測したくて定規を持つてトンボに近づき計測しました。大きいから動きも鈍くて逃げ回ることもしないから撮影は可能だつたけど、上手に写真が撮れない。誰かに見ってもらいたくて、そのまま事務所に閉じ込めて、ゴミ車に乗っている恭ちゃんと英司くんの帰りを待つことに。二人に自慢げにオニヤンマを見せる私。そして恭ちゃんに撮ってもらった写真がこれです。



この後、英司くんが外に逃がしてあげようとして……手をかじられました！

全長9センチありましたよ。大きいですよね？もつと大きいのもいるのかな？英司くんが逃そうと捕まえて「これにかじられると痛いんだよね」と言つたと思つたら「イテツ」と指を見ると血が滲んでいました。オニヤンマも必死の抵抗ですよ。

今年は赤トンボをまだ見ていないのですが、こんな大きなオニヤンマを見て満足した私。浦河は、すっかり秋が深まってきましたね。そうこうするうちに、あゝ冬が来るな。もう少しゆつくり時間が経過してくれるといいのに、なんだかか超速スピードで時が進む今日のごとです。

発行 株式会社マルセイ
灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業



夏季期間(4月~10月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~5:30土曜3:00

編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3500部
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3
TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789